

平成28年度第69期生卒業式（平成29年2月28日）

天候にも恵まれ穏やかな日差しのもと、69期生の門出をお祝いする卒業証書授与式を行いました。多くのご来賓、保護者の皆様、教職員、在校生の出席のもと、第69期生317名のたびだちをお祝いしました。

卒業式 式辞

本日ここに、大阪府立清水谷高等学校第六九回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、公私ご多用中にもかかわらず、多数のご来賓のご臨席を賜り、卒業生の前途を祝福していただきますことに対しまして、厚くお礼申し上げます。また、皆様方には平素より本校の教育活動に深いご理解と様々なご支援を頂戴しておりますことに、この場をお借りして、重ねてお礼申し上げます。

本日、ご列席いただきました保護者の皆様には、今、晴れやかに巣立ちゆく若者たちの英姿をご覧になり、それぞれの幼いころからの生い立ちを思い出されるなど、感激もひとしおのことと拝察し、お慶びを申し上げます。三年前、春爛漫の桜の花とともに本校に入学されたお子様方は、実に頼もしい若者に成長されました。高校時代は心身ともに、実に大きく成長する時期であります。かの文豪ゲーテが「疾風怒濤の時代」と形容したこの時期にありがちな、有り余るバイタリティーゆえに保護者の皆様方には、時に御苦労もおありになったことと存じます。本日の卒業は、お子様の努力の結晶であると同時に、絶えずお子様を励まし温かく育てられました保護者の皆さま方の薫陶に対するたまものでもあります。日ごろのご労苦が、このように頼もしい若人の姿として実を結びましたことに対しまして、心から敬意とお祝いを申し上げます。

六九期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました三一七名の皆さん一人ひとりの記憶の中には、清水谷で過ごした熱い青春がよみがえっていることでしょう。希望と不安の入り交じる中、本校に入学してから三年間、皆さんは果敢に学業や部活動あるいは行事に取り組んできたことと思います。あるときは切磋琢磨し、あるときは時を忘れて没頭し、友と語り、涙し、力を合わせて、かけがえのない青春を自らの手で作りあげてきたことでしょう。そして生涯続く友情を培った生徒も多いと思います。その三年間のうち、私は今年度一年間一緒に過ごすことができました。快晴の下の体育祭、応援団長を中心にまとまりと清水谷の頑張りを見せてく

れました。中庭で行われた文化部の発表・文化祭の中夜祭では、清水谷の生徒の力強さを見ることができました。また、授業見学に行くたびに、和気藹々とした中にも真剣さを見せてくれました。この一年の間に、皆さんから多くの元気や勇気をいただいたような気がしています。

さて、皆さんが旅立とうとしている社会は、かつてない混乱期、激動期を迎えています。自らの力で漕ぎだそうとしている二十一世紀の大海原は波高い荒海、順風満帆の航海とはとてもいかないでしょう。未来は何が起きるかわかりません。そんな時代を生きる上で一番大切なことは、未来を楽しむ心、未知を探求できる強さを持つこと、未来は不確実で予測不能なものだからこそ人生は面白いのかもしれない。

このような、厳しい時に出発つ（たびだつ）皆さんだからこそ「志（こころざし）」をしっかり持って欲しいと思っています。

ここで皆さんにお願いしたいことがあります。

それは、皆さんの内に未だ秘められている優れた自分を発見し、磨きをかけ伸ばすこと、すなわち「未だ出会わぬ自己」を発見する努力を続けることを切に願います。

IPS細胞の研究と開発によりノーベル生理学・医学賞を受賞された京都大学の山中伸弥教授が、お父様をなくされた悔しい気持ちから医師をめざされたことや、ラグビーの選手であったことから当初は整形外科医になられたことは以前に皆さんにお話ししています。しかし、手術が下手で外科の臨床医としては失格だったそうです。教授にとってこれは大きな挫折でした。この挫折体験がIPS細胞の発見へとつながるのです。このことを教授は同じノーベル賞受賞者の益川敏英氏との対談で「人間万事塞翁が馬」と言っています。臨床医としての挫折によって基礎医学の研究という新しい目標ができ、それに向かったの挑戦と努力の継続へと展開させたのです。

塞翁の場合は偶然によるものですが教授の場合を含めて、一般的には凶を吉に変える力は自分自身の力、意思の力です。私たちが人間として生きていくためには、このようにありたいという理想、夢があります。その夢の実現のために一路邁進し、「未だ出会わぬ自己」を見つけてください。

私の大好きなある府立高校の校長先生であった方は、学生時代に柔道に打ち込み、自分の体力・精神力の限界は自分が思っているよりももっと先にあることを知ったと言っています。なぜなら、その時は死ぬほどしんどい、もう限界やと思ってもぶっ倒れることは無かったからだそうです。

君たちの限界も、自分できめた体力・精神力の限界からもうすこし先にあると思ってください。

清水谷高校を卒業するにあたり、この三年間、培ってきた知識と能力と感性で、さらに大きな夢やあこがれを描くことで、自分の将来進むべき道を切り開き、社会に貢献する力を備えた大人へと成長されることを心から願っています。

皆さんの前途に幸多かれと心から祈り、式辞とします。

平成 29 年 2 月 28 日

大阪府立清水谷高等学校 校長 橋本 卓爾